

数々修習

vol.04

平成二十八年 初冬

百螺祈願 報告書

- ご挨拶
- 百螺祈願 無事執り行いました
- 百螺祈願 ことば
- 参加いただいた方からの声
- DVDを製作中です
- フォトアルバム (裏面)

数々修習とは？

道を求める事、つまり見道・求道を繰り返し繰り返し反復するという意味です。私住職もこのお便りと一緒に熟読していければと思っています。

醍醐桜の成長とともに、一歩一歩前へ進んでまいりましょう

皆様のご理解、ご参加に深く感謝いたします



第二十住職 蔵本崇正

熊

本蔵院の復興を目的に執り行った百螺祈願。天候にも恵まれ、無事終了することができました。

私は道中、法螺貝を吹きながら地震の日を思い返しておりました。本蔵内は見ても無残な姿になり、また当院の霊園内も相当数の倒壊が確認されました。また個人的なことでございますが、震災翌日に子どもが誕生し、公的な責任と私的な責任が一気にのしかかり不安で仕方がありませんでした。それでも、多くの方々のご支援や駆けつけてくれた仲間たちの励ましを力に、皆で手を取り合いながら何とか乗り越えようと思いました。

その願いの中で生まれたのが「百螺祈願」です。発案が7月末。各方面へのご理解とご協力、それに加え歴史的裏付けを取り、実際に動き始めたのは8月中旬でした。準備期間は約3カ月。被災者でもある自分に果たしてできるのだろうかと不安に不安を重ねました。しかし、今のこの状況だからこそ、明日に願いを持ち、その願いによって今が変わるのだと信じ一歩前に踏み出しました。醍醐寺の仲田座主猥下、加藤神社様、そして

阿蘇神社様には、私の突然なお願いにもかかわらず、お話しした当日にご賛同くださいました。

この百螺祈願という浄行は、間違いなく熊本の歴史に残ります。ある山伏の方にこう言われました。「百螺の一螺になれて幸せです」「百分の一になれた事が誇りです」と。私にとって何よりの言葉でございました。

熊本の復興のために全国より駆けつけてくださいました多くのご住職の皆様、また、ご理解、ご協力いただきました「総本山 醍醐寺」様、「加藤神社」様、「阿蘇神社」様、檀信徒の皆様、そしてすべての県民の皆様、深く感謝申し上げます。

百螺祈願を執り行ったこの日を熊本の新たな一歩の日とし、醍醐桜の成長とともに、復興へ向け、皆様と一歩一歩歩んでいきたいと思っております。本当にありがとうございます。

合掌

平成二十八年十一月九日

百螺祈願実行委員長
第二十住職 蔵本崇正 拝



上/この日のために作られたのぼり 中/本蔵院からの出立の瞬間。法螺貝を吹き鳴らします 下/加藤神社到着。湯田宮司にお迎えいただきました

百螺祈願、無事執り行いました

熊本城と加藤神社、阿蘇神社に響く法螺貝と、揺れる醍醐寺の桜

熊本地震からの復興を願い、百十人の山伏たちが全国から集まった「百螺祈願」。十一月七日(月)には、本蔵院から加藤神社まで、十一月八日(火)は阿蘇市の国造神社から阿蘇神社までを、檀信徒さんたちとともに練り歩きました。報道陣も多く集まり、新聞やテレビニュースでご覧いただいた方も多かったです。二日間とも、天候に恵まれました。特に心配していた二日目の阿蘇も、なんとか祈願までは持ちこたえてくれました。これもひとえに仏様、神様が見守ってくださったからだと思います。

阿蘇の山々を眺めつつ歩みを進めました。醍醐寺の桜には、地元「りんどう保育園」の子どもたちも、協力してくれました。いづれの行程でも、山伏百十名が列に並び、天高く法螺貝が吹き鳴らされます。「ヴォー」と百十丁の法螺貝が響く音は、観光客や地元の方が立ち止まる姿も多く見られました。到着した神社では、宮司が百螺祈願の祝詞と実行委員長の本蔵院住職が願文を読み上げるとともに、法螺の音を奉納しました。神社と寺院が手を取り、ともに祈願を行うのは、熊本ではごく珍しいことです。

祈願後、各宮司と醍醐寺の仲田座主猥下の手による、「醍醐の桜」の植樹を執り行いました。加藤神社および阿蘇神社の境内で、醍醐桜の葉が揺らめき、これが熊本復興へのひとつのシンボルとなることを確信いたしました。

「感動感謝の百螺祈願」
猥下様阿蘇山青年連合会様蔵本実行委員長を始め関係各位に県民を代表して心より感謝の誠を捧げたいと思います。この度の「百螺祈願」は、神仏宗派を超えて、熊本城そして熊本の復興を共に祈るといふ類のない大事業であり、奉仕者は勿論のこと県民に大きな感動と勇気を与えられました。百名以上からなる山伏の凛々しい御姿と清らかな法螺貝の音がこれから熊本に生き続けることでしょう。春に植樹頂いた醍醐桜が満開に咲き誇り、さらなる癒しを与えてくれることを願います。

阿蘇神社 内村泰彰権禰宜

一緒に参加されたM様

この度は百螺祈願を企画齋行いただきましました事、心より御礼申し上げます。
「祈り」が持つ力の大きさを改めて感じることもできる素晴らしい法要となりました。また由緒ある桜を植樹いただきました事、併せて感謝申し上げます。来年に早速花を見ることができると伺っておりますので、職員一同楽しみにしております。

初めは、最後まで歩けるか不安でしたが、この歴史的行事にどうしても参加したくて思い切ってお申し込みしました。これほど、本蔵院の檀家であって誇りに思った事はありませんでした。来年の醍醐桜の開花が待ち遠しいです。

三重県 毘沙門寺住職 松井秀宗師

沿道でご覧いただいたK様

地震直後、電話にて蔵本師がまず発した言葉は「大丈夫、心配するな」でした。私は安心しましたが、その声にいつもの力強さがなかったことに気付いた時、少しでも心配をかけまいとする彼の思いやりに触れ、何も出来ない自分に不甲斐なさを感じました。

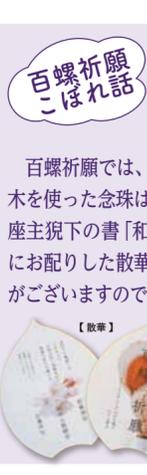
前略 早速ですが、百螺祈願 誠に天晴れでした。特に熊本城をバックにした光景は時代絵巻を彷彿させるに充分でした。感動しました。家内も付いて廻り絶賛しています、本当にお疲れさまでした。感激のあまり一筆認めました。

(※すべて原文ママ)

百螺祈願 ことば

加藤神社・阿蘇神社へ奉納しました 願文

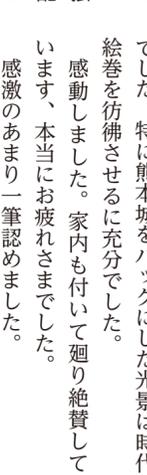
願文とは、神社や寺院に願を立てる際にその趣旨を記した文。百螺祈願でも、歴史背景や意義、思いを込めた願文を用意しました。神社到着後の祈願時に加藤神社、阿蘇神社の両神社内で本蔵院住職が読み上げ、各神社に奉納いたしました。



百螺祈願 ことば

ご希望の方はお早めに 数珠や色紙、散華の記念品がございます

百螺祈願では、特別の記念品をいくつか準備いたしました。桜の木を使った念珠は子ども用(在庫なし)と大人用の2種。醍醐寺仲田座主猥下の書「和」の色紙。また、百螺祈願の行程で観覧者の皆様にお配りした散華もまだ少し残りがございます。いずれも数に限りがございますので、ご希望の方はお早めに本蔵院でお受けください。

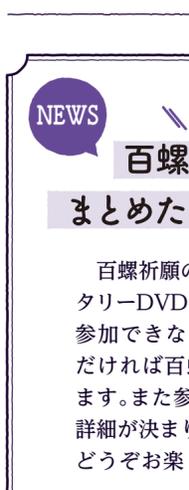


百螺祈願 ことば

本蔵院住職が背負っていたものは？ 芳名帳を各神社に奉納いたしました

百螺祈願に参拝した方の中には、本蔵院住職が背負っていた箱のようなものに気付かれた方もいらっしゃるかもしれません。実はこの箱の中には、百螺祈願を歩く、全国からの山伏さんたちのお名前を記した芳名帳が2冊入ってあります。

お一方お一方の名前を記した芳名帳の重みを感じつつ、すべての行程を背負って歩きました。これが永代に渡って「ともに百螺祈願を行った」という何よりの証になります。1冊ずつ、加藤神社、阿蘇神社にしっかり奉納をいたしました。



木の箱に収められた芳名帳、山伏さんのお名前がずらりと並びます。

NEWS 百螺祈願の全行程をまとめたDVDを販売します

百螺祈願の全行程を撮影したドキュメンタリーDVDをただいま製作しております。参加できなかったという方も、ご覧いただければ百螺祈願の様子がすべて分かります。また参加された方の記念としても。詳細が決まり次第またご報告いたします。どうぞお楽しみに！

皆様のお声をお聞かせください
無事百螺祈願を執り行い、ほっとしています。内容のご感想やご要望など、お聞かせください。また紙面でご紹介できるエピソードや、お子さん、お孫さんのお写真などございましたら下記までお気軽にお送りください。お待ちしております。

◆ファックス 096-364-9570
◆メール info@honzouin.or.jp
発行元 本蔵院「数々修習」編集室
(担当/宮本ゆりこ)
〒860-0811 熊本市中央区本荘6-15-50
TEL 096-364-4848 / FAX 096-364-9570